

第2回がん新薬開発合同シンポジウム

新薬開発に向けたわが国での産官学連携のあり方

- 企業の立場から -

2012年11月16日 中外製薬株式会社 プロジェクト推進部 大友 俊彦

当社の産学連携成功例



製品名	作用機序	適応	上市	産学連携
アルファロール	ビタミン D3 誘導体	骨粗鬆症	1981	ウィスコンシン大学
シグマート	NOドナー/ K チャンネルオープナー	狭心症	1984	東京大学
ノイトロジン	rG-CSF	好中球減少症	1991	東京大学 実中研
アクテムラ	抗IL-6 受容体抗体	関節リウマチ	2005	大阪大学

<u>成功例にみる産学連携のポイント</u>

- ▶ 産学お互いの価値観を理解・尊重する
- ▶ 目的へ向けたベクトル・利害が一致
- ▶ 技術、ノウハウを補完(役割分担)できる

特徴ある技術・強い技術は産学連携を誘引できる

G-CSFの研究開発(産学研究協力体制による成功例)



分担と連携

東大医科研

実中研

中外製薬



```
G-CSFの予測・現象の確認(1974)
        (東・実・中)
産生細胞(CHU-2)の樹立(1982)
         (実)
因子の純化(1984)
         (中)
cDNAクローニング(1985)
         (東・中)
大量生産法確立(1987)
臨床開発・申請(1989)
販売(1991)
```

これまでの多くの共同研究について



大学・研究機関から企業へライセンスするリニア型

大 学 研究機関 個 人

協働?

企業

発明・発見 アイデア 共同研究



ライセンス

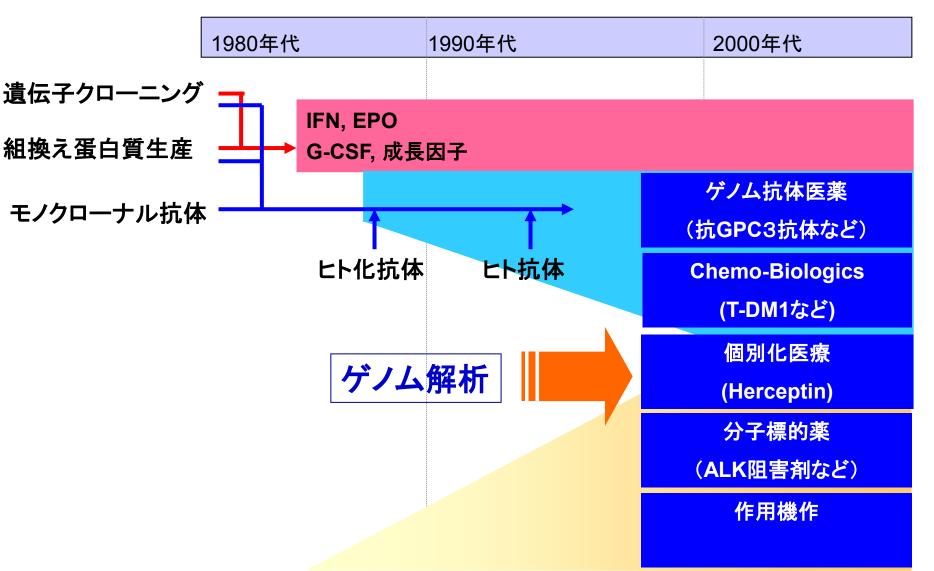
応用 実用化 開発



企業内での完結

創薬におけるゲノム情報の活用





バイオ医薬

低分子医薬

求められる薬剤の変化



患者利益の向上

- 高い有効率
- 不要な治療の中止
- 副作用の減少

薬剤に求められる付加価値

- 患者の層別化
- 効果の判定
- 副作用の予測

患者のQOL向上につながる治療に貢献する薬剤への期待

〇多くの細胞、多くの組織に作用してしまう抗生物質やがん化学療法薬から、 病変細胞や病変組織に特異的に作用する治療薬へ:分子標的薬

〇患者さんへの効果的な治療に貢献するバイオマーカーの活用へ:個別化医療

オミックス創薬研究・橋渡し研究

創薬の潮流と4つのハードル





ハードル I バイオ研究基盤

遺伝子工学

発生工学

細胞工学

創薬化学

標的分子

の同定

機能解析 新規遺伝子 抗体調製

分子生物学

ゲノム科学

タンパク科学

遺伝学

バイオインフォマティクス

医科学

ハードルⅡ 蛋白質大量生産

抗体ライブラリー

蛋白 抗体

の発現

リード化合物

探索

抗体工学

高分子蛋白質 (抗標的分子抗体等)

大量培養技術

大量調製

商業生産

商業生産

製剤技術

薬効・薬理 安全性研究

開発候補品

最適化検討

蛋白·抗体

の調製

コンピナトリアルケミストリー

HTS

有機化学

天然物ライブラリー、化合物バンク

ハードル皿 工業化学

SBDD

(Structure-Based Drug Design)

低分子化合物

(標的分子アンタゴニスト等)

ハードルIV 治験

ファルマコケ・ノミクス

トキシコケンミクス

前臨床開発

薬剤疫学

臨床開発

臨床薬理学

統計解析

Case 1: 抗Glypican-3 (GPC3) 抗体



東大先端研が主体となるNEDOプロジェクトにおいて、GeneChipを用いたヒト肝細胞癌の遺伝子発現プロファイリングから、HCC特異的に発現するグリピカン3(GPC3)を同定し、抗原依存的に効果を現す新規抗体医薬を創製

コンパニオン診断薬開発に向けたGPC3免疫組織染色法の確立、ならびに発現Prevalenceデータの取得、ターゲット分子(GPC3)の臨床病理的な意義を解析

薬剤標的分子、診断分子の同定

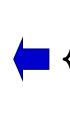


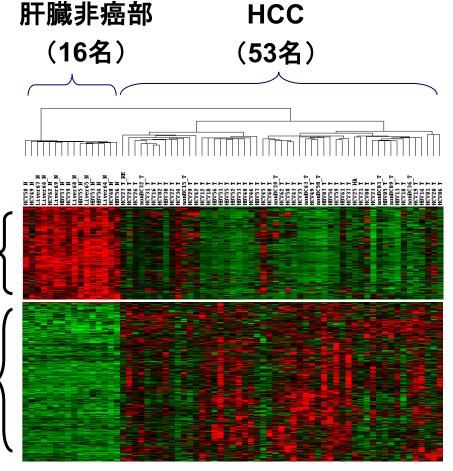
肝癌(HCC)及び肝非癌部での遺伝 子発現の比較

(Affymetirix GeneChip (ver.3.3) for 6000 genes)

約100遺伝子の発現 非癌部>HCC

約200遺伝子の発現 非癌部<HCC





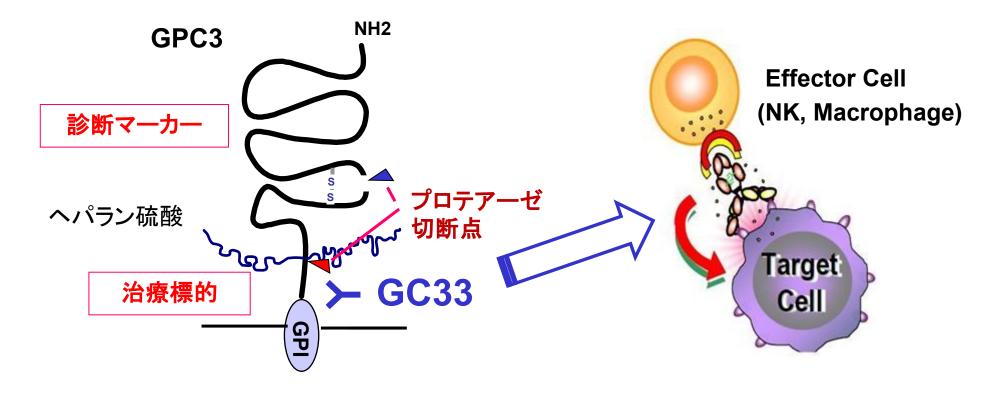


表面蛋白質をcodeする遺伝子を選択 (GPC3, etc)

Glypican3 (GPC3)



- へパラン硫酸付加型プロテオグリカンファミリー、GPIアンカー型膜蛋白質
- 胎児期の肝臓に発現。ヘパラン硫酸が増殖因子と結合し、細胞の増殖、分化等に関与
- ヒト成人肝臓非癌部及び主要臓器では、GPC3の発現はほとんど認められない
- 70~85%の肝癌患者において、肝癌組織でGPC3が発現
- GPC3の発現量と肝細胞癌の予後不良とが相関

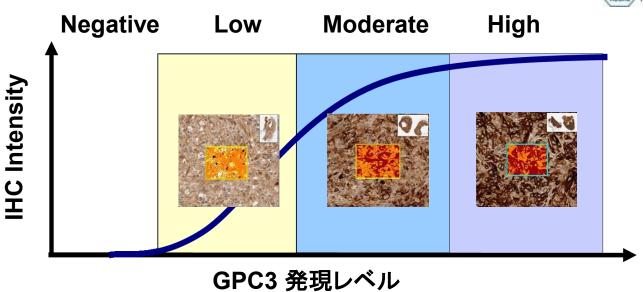


GC33: GPC3の発現レベルに依存した抗腫瘍効果

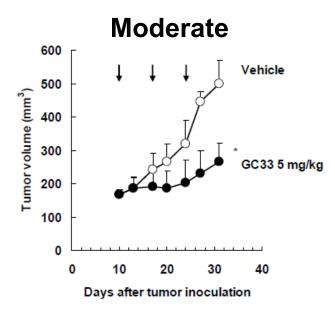


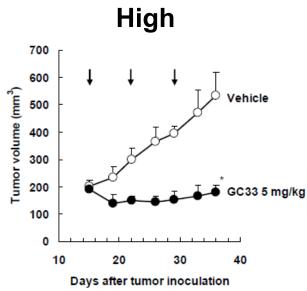
SK-HEP細胞 (GPC3-陰性)

GPC3 強制発現



1000 | Vehicle | GC33 5 mg/kg | 400 | 0 | 10 | 20 | 30 | 40 | Days after tumor inoculation





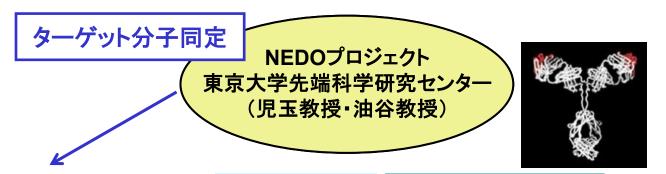












リード抗体ヒト化抗体

ヒト化抗体 産生系樹立

非臨床試験

Ph1

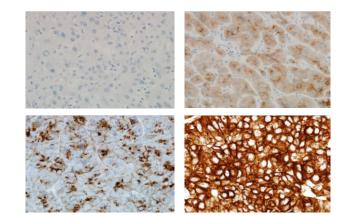
Ph2

GPC3免疫組織 染色法構築

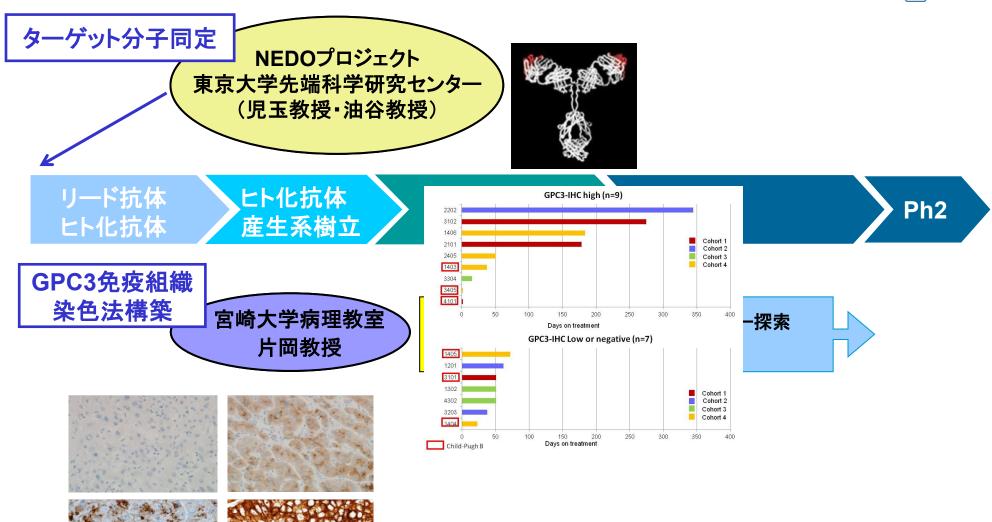
宮崎大学病理教室 片岡教授 GPC3-IHCプロトタイプ 発現分布 予後解析

バイオマーカー探索 (GPC3-IHC)













NEDOプロジェクト 東京大学先端科学研究センター (児玉教授・油谷教授)



リード抗体ヒト化抗体

ヒト化抗体 産生系樹立

非臨床試験

Ph₁

Ph2

GPC3免疫組織 染色法構築

宮崎大学病理教室 片岡教授

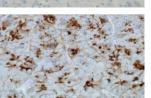
GPC3-IHCプロトタイプ 発現分布 予後解析

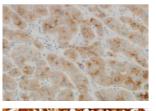
バイオマーカー探索 (GPC3-IHC)

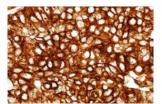
Assay







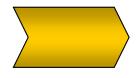




GPC3-IHC 診断薬開発



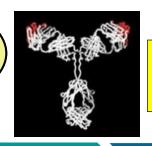
Analytical Validation



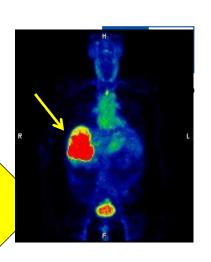
Clinical Validation

ターゲット分子同定

NEDOプロジェクト 東京大学先端科学研究センター (児玉教授・油谷教授)



Imaging study (MSKCC)



リード抗体ヒト化抗体

Lト化抗体 産生系樹立

非臨床試験

Ph1

Ph2

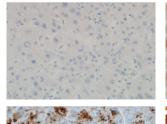
GPC3免疫組織 染色法構築

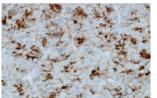
宮崎大学病理教室 片岡教授

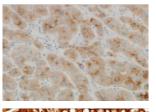
GPC3-IHCプロトタイプ 発現分布 予後解析

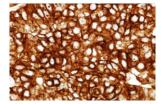
バイオマーカー探索 (GPC3-IHC)



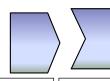






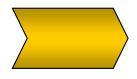


GPC3-IHC 診断薬開発



Assay

Analytical Validation



Clinical Validation

Case 2: ALK阻害剤



自治医大・間野教授らにより発見された肺がんにおける ALK遺伝子の転座・活性化報告をもとに速やかに特異的 な阻害剤を創出

ALK融合遺伝子陽性患者を選別するための方法への早期アクセスによるFirst-in human試験の速やかな実施

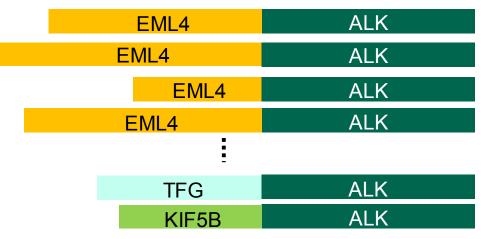
肺癌におけるALK遺伝子の活性化



■ 非小細胞肺癌の約5%でALK遺伝子の

rearrangement

- ALKの活性化
- EGFR、KRAS 変異とは独立



Soda et al., Nature, 448, 561-6 (2007)

■ ALK陽性の肺癌はEGFR-TKIに耐性

	EML4-ALK	EGFR mt	WT/WT
	(n=15)	(n=25)	(n=49)
Response rate Platinum doublet EGFR-TKI	25%	50%	35%
	0%	70%	13%

Shaw, T., J. Clin. Oncol., 2009: 27, 4247-53

ALCAS (ALK-Lung Cancer Study Group)



- 目的
 - 日本国内の全国的なALK診断システムの確立
 - 日本国内の早急なALK阻害剤の臨床試験の実現

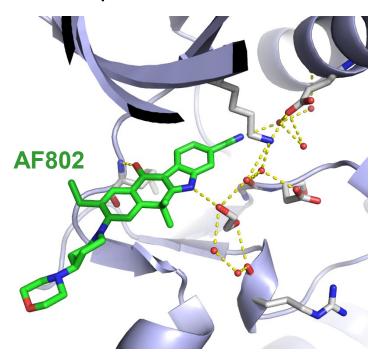
■ 運営

- 2009年3月に間野博行先生らによって設立
- 2009年8月までの中間データを報告(2010/4 第50回日本呼吸器学会)

AF802/ CH5424802 : ALK選択的なkinase阻害剤

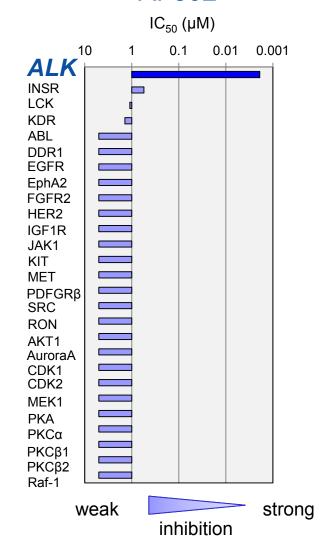


Crystal structure of AF802 in complex with ALK



- ATP-competitive inhibitor
- Enzyme: $IC_{50} = 1.9 \text{ nM}$
- Binding affinity: K_d = 2.4 nM

Kinase selectivity AF802



AF802: 国内Ph1/2試験でのALK診断法



Subject

✓ Sputum

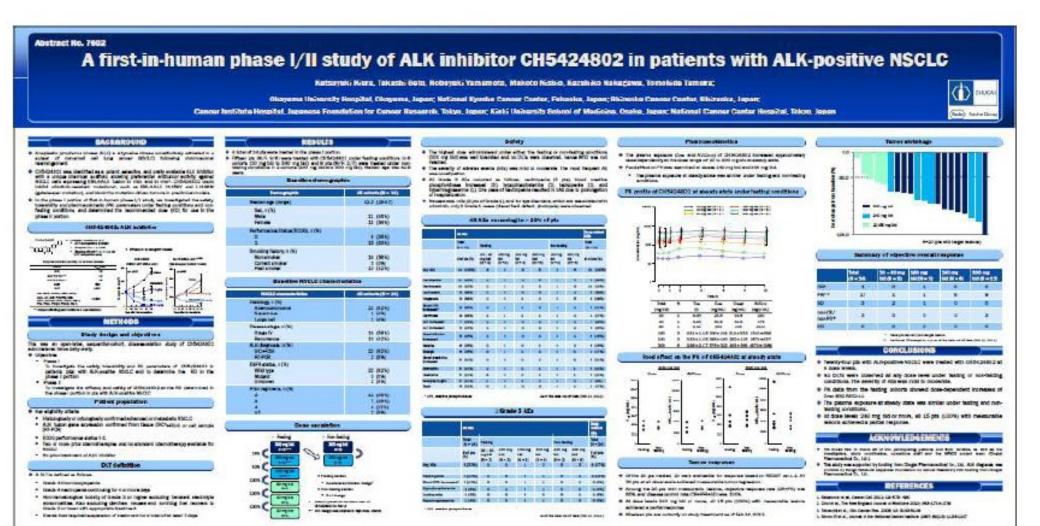
NSCLC patients with ALK fusion gene

ALK diagnosis tests for patients screening in Japanese clinical trial FFPE (Formalin-fixed, Break-apart FISH **ALK IHC** paraffin-embedded) **IHC** tissue sample ALK pos. iAEP method **ALK-fusion** or * Takeuchi et al., Clin. Cancer Res. 15, 3143-3149 (2009) Positive Other fresh sample RT-PCR √ Pleural effusion ✓ Bronchial wash

AF802/CH5424802: 国内Ph1成績 (ASCO2012)

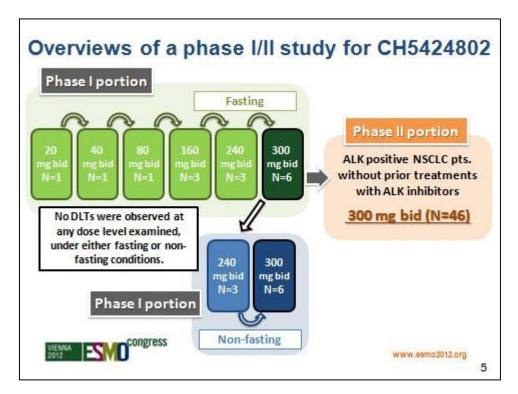


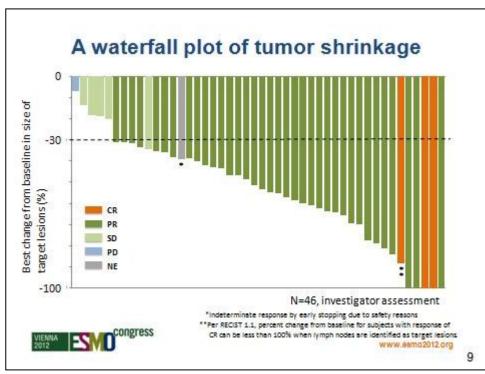




AF802/CH5424802: 国内Ph2成績 (ESMO2012)







がん新薬開発における今後の展望と課題

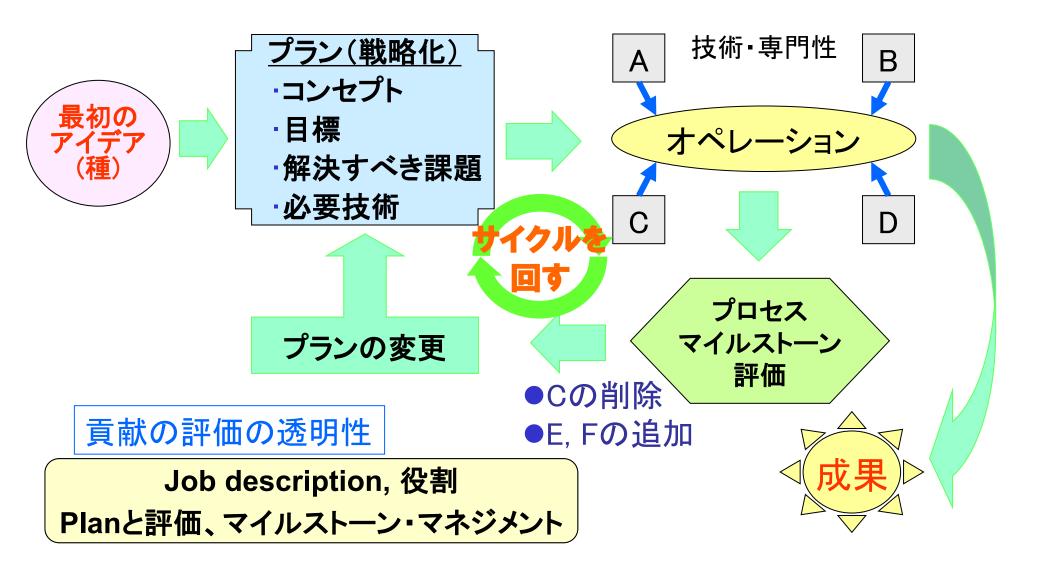


- 新たなアンメット・メディカルニーズに対する治療薬の開発
 - 患者層別化の進展
 - ✓ 層別化がさらに細分され、あらたなニーズに対する治療薬開発
 - ✓ 新たなニーズに対する治療薬開発を可能にする技術(DDS)の開発
- コンパニオン診断薬の重要性
 - 個別化医療を実現するためのバイオマーカー、診断薬の研究開発の進展
 - ✓ 治療薬とコンパニオン診断薬の同時承認にむけた審査体制の整備、ガイダンスの 策定
- 橋渡し研究・コホート研究の重要性
 - 橋渡し研究・コホート研究を支えるオミックス研究の進展
 - ✓ 個人情報保護に関する課題
 - ✓ 規模の拡大に伴う解析の低コスト化の実現

これからのオープンイノベーション型産学連携のあり方



早期の実用化のため、プロジェクト・マネジメントの視点が重要に



日本のアカデミアへの期待



- 基礎: シーズ探索
 - 総合優位性につながる新規性のあるシーズ
 - 新規技術へのアクセス
- 臨床: Clinical Science力の更なる向上
 - Clinical PoC (Proof of Concept) をいち早く達成するための臨 床試験オプションの提示・実施
 - 各種疾患領域における全国doctorの実質的な連携

- 一方で、企業側も、
 - 独自の強み、特徴ある創薬技術を持たないと、、、

産官学連携は競争に勝つための手段



- 人財の重点的投入 企業では不可能な選択と集中
- トップクラスの科学水準
- 国際的ネットワーク(共同研究・情報入手)
- 利益を独り占めできない
 - しかし、競争に負けては何も得られない